

## ようこそ私立幼稚園へ

神奈川県私立幼稚園連合会で発行している会報「神私幼」父母の会版を加盟園保護者の皆様にお届けします。

### 会長就任のご挨拶

神奈川県私立幼稚園父母の会連合会

会長 小林 武史



皆さん、初めまして。川崎市麻生区の緑豊かな住宅街に位置する、川崎青葉幼稚園で年少の娘がお世話になっている小林武史です。この度、神奈川県私立幼稚園父母の会連合会の会長に就任するにあたり、一言ご挨拶をさせていただきます。

今春から幼稚園に通う年少の園児たちは、コロナ禍で生活も価値観も大きく変わった令和2年度(2020年度)に生を受けた子どもたちです。また神奈川県は首都圏に位置し、かつ東京に次ぐ約920万人が住み多様性に富んでいます。最近では外国にルーツのある園児も珍しくありません。

かくいう私の妻はオーストラリア出身で、年少の娘は2つの国にルーツを持っています。忘れもしない2020年3月、出産を7月に控えていた妻は急遽翌日にオーストラリアの実家へ帰国するためフライトを予約しました。なぜなら、翌日の現地時間18時をもって、それ以降に到着するフライトの乗客は入国を拒否するとの政府発表がなされたためです。日本でも外国人の入国は原則受け入れない状況が続きましたが、家族など「特段の理由」を根拠に、翌年3月5日に妻は生後7か月半の娘を連れて羽田空港へ戻ってきました。出産に立ち会えず、出産後はリモートで様子を観察していた我が子との初めての対面でした。

私にこういったストーリーがあるように、おそらく年長や年中のコロナ禍で子育てに励まれた保護者の皆さん一人一人にもご自身のストーリーがあると思います。そして不安になった時も、苦しい時も、一人で抱えることが多くて自暴自棄になった時も、苦勞を乗り越える力を与えてくれたのは、愛する我が子の笑顔と同じ状況下にあったママ友、パパ友であったと思います。悩みを抱える保護者が、気軽に相談できる会長になれるよう努力して参ります。

最後になりますが、多方面でご活躍されている歴代の会長先輩方と比べますと、会長としても、親としてもまだまだ経験不足です。しかし気持ちだけでも負けないよう、神奈川県私立幼稚園に通う園児たちは皆我が子の想いで会長職を全うして参ります。そのためにも、神奈川県私立幼稚園に園児を託して下さる保護者の皆さん、先生始め各園関係者の皆さん、そして父母の会連合会常任委員の皆さんのご理解とご協力が必要です。皆さんの園児を想う愛情を結集したワンチームで一年間進んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

### 「こども基本法」って聞いたことがありますか？

公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会

会長 木元 茂



令和5年4月にこども家庭庁ができるのと同じ時にこども基本法が動き出しました。

子どもや若者の一人ひとりが大切な存在であり、みんなが自分らしく幸せに成長でき、暮らせるように、社会全体で支えていくことが重要で、その体制をつくるために必要なことを都道府県ごとに検討しなさいという考えです。

皆さんは、「こども」って何歳までのことだと思いますか？乳児や幼児、児童くらいまでかなとも思いますが、こども基本法では、心と身体の成長の段階にある人はすべて「こども」、だから18歳や20歳だって「こども」ではないとは言いきれないのです。

現在、神奈川県庁で検討されている子ども・若者施策の審議会では、当事者である子どもたちにも直接意見を聴いて施策に反映させようとしています。「妊娠前から妊娠期、出産、幼児期までの切れ目のない保健・医療の確保」「子どもの誕生前から幼児期までの子どもの成長の保障と遊びの充実」「子どもが安心して過ごし学ぶことのできる質の高い公教育の再生」「居場所づくり」等々ライフステージ別に様々な重点施策がリストアップされています。ここで議論されたものが条例として制定されて、皆さんのお住まいの自治体にも影響を及ぼしていきます。

ところで、報道によりますと令和5年度に不登校だった小中学生が前年度比16%増の34万人を超えました。文部科学省は、病気や経済的理由などを除き、年間30日以上登校していない状態を不登校と定義しています。小学生は約13万人(前年度比24%増)です。年間の欠席日数が90日以上の子どもの数は不登校全体の55%。これから小学校へ進級する皆さんにとっては気になる数字です。不登校の大幅な増加の背景にはコロナ禍の影響もあり、行動制限がかかるなどして生活リズムが乱れた影響や、成長期にコミュニケーションの基礎を作りにくい環境が数年続いたとの見方もあり、地域や学校に多様な居場所がないと今後も増加傾向が続くだろうとの識者の意見もあります。

一方で今の未就学児や小学校低学年の子どもたちも、毎日忙しそうだなと感じることもあります。早期教育に取り組むご家庭も多々あることは理解していますが、家庭や学校以外にも子どもたちの居場所が必要だと感じます。令和8年度から本格実施予定の「こども誰でも通園制度」では幼稚園や認定こども園も、就労要件を問わずに利用でき0~2歳児の親子の新たな居場所として期待されています。子どもも他児や保育者との新たな出会いと経験ができ、保護者の方も息抜き(respite:レスパイト)ができる、そんな新しい制度になります。1989年に国連で採択された子どもの権利条約第31条には、子どもには「休む権利」があると書かれています。子どもが抱える不安の解消のためには、園や学校、地域の助けも借りながら、親子で一息つける時間と空間と仲間を増やしたいですね。きっと神奈川県内の各園もご協力できると思います。

### 県父母連委員総会報告

神奈川県私立幼稚園父母の会連合会の委員総会が6月27日(日)にかながわようちえん会館会議室で開催され、令和6年度常任委員が下記のとおり選出されました。よろしくお願いたします。



#### 令和6年度父母の会連合会常任委員名簿

役職	氏名	園名	協会
会長	小林 武史	川崎青葉幼稚園	川崎
副会長	西山 美佐子	潮見台みどり幼稚園	川崎
副会長	篠崎 ケイ子	認定こども園田名幼稚園	相模原
会計	葛西 桃子	セント・メリー幼稚園	横浜
会計	有田 希美	フレンド幼稚園	横浜
委員	山本 文	津久井幼稚園	横須賀
委員	寄門 ふく子	認定こども園中央大カ幼稚園	湘央
監事	田中 千鶴	善隣館幼稚園	横浜

#### 第31条 休み、遊ぶ権利

こどもは、休んだり、遊んだり、文化芸術活動に参加したりする権利を持っています。



出典: こどもの権利条約 法務省ウェブサイト

(<https://www.moj.go.jp/content/001392920.pdf>) から抜粋

# わ け 僕が泳ぎ続ける理由

講師 入江 陵 介 氏

イトマン東進所属、ロンドンオリンピックメダリスト、  
日本記録保持者、元水泳日本代表選手



本格的な寒さに冬の訪れを感じる季節となりました。今年度も昨年同様に対面での開催とYouTubeによるアーカイブ配信が実施されました。当日は、秋晴れの心地よい爽やかな日となり、会場となった県立音楽堂には、県内全域から大変多くの皆様にお集まりいただきました。開会式では、はじめに父母の会連合会・篠崎ケイ子副会長より開会の言葉があり、続いて父母の会連合会・西山美佐子副会長、神奈川県私立幼稚園連合会・木元茂会長より挨拶がありました。

また、ご来賓の方々を代表して神奈川県知事代理副知事・首藤健治様、神奈川県議会議員・柳下剛様、神奈川県私立学校審議会会長・松田良昭様の3名の方に、子どもたちのより良い未来のためのお話をいただき、私たちの子育ては、たくさんの方々の支援があって成り立っているのだと改めて感じました。最後に、未来を担う子どもたちが心身共に健やかに成長することを願う宣言をもって開会式が終了しました。

その後の講演会では、元水泳日本代表・日本記録保持者・ロンドンオリンピックメダリストの入江陵介さんにお話をいただきました。今回の講演会は入江さんと、父母の会連合会常任委員・葛西桃子、神奈川県私立幼稚園連合会・石井和則副会長の3名での鼎談方式でお話をさせていただきました。今年4月に現役引退をするまで、18年間もの長い間日本代表として泳ぎ続けた入江さんから、幼少期、全盛期、そしてこれからについてのお話を聞くことができました。

第一線で活躍し続けた入江さんですが、水泳を始めたきっかけは「ご兄姉が通われていたから」というよくあるものでした。当時は水泳だけでなく、ピアノや絵画など様々な習い事をしていました。小中学生の頃から水泳で輝かしい成績を残していた入江さんですが、当時は「オリンピック選手になる」なんて夢にも思わなかったと仰っていました。

高校進学タイミングで水泳を人生の軸としていくことを決意したそうです。当時のご両親のサポートについて伺ったところ、ご両親は水泳について指導をしてきたことはなく、その代わりに学業は手を抜かないように言われていたそうです。どの家庭でも、我が子を大切に思うあまり、干渉しすぎてしまうことがあると思います。しかし入江さんは、「家はどうか子どもたちにとって休

まる場所であってほしい、子どもから話すまで詮索しないであげてほしい、親が干渉しすぎると、自分で考えることができない子どもになる。自立を促すためにも、温かく見守ってほしい。」と話されていました。

また、三兄弟の末っ子として育ってきた入江さん。「第一子は丁寧に、第三子は甘やかされて育ちます。真ん中の子を気にかけてあげてください。」と仰っていました。会場から大きな盛り上がりきた場面でもありました。

日本代表に選ばれてからは、たくさんの苦難があったそうです。やめなくなった時にはどのように考えていましたか？との問いかけには、理由が「嫌だから」「しんどいから」「時間がないから」だったらやめない。やめた後、明確に他の道があるならやめてもいい。もし子どもがやめたいと言った時には、毎日100点を取るうとするのではなく、0点を取らないように自分の中で小さな目標を決めてやるようアドバイスしてほしいと話されていました。鼎談の最後には、子どもだけでなく保護者にも、

100点の毎日じゃなくていい、情報で溢れる現代だけ過剰に反応しすぎないように、子どもを信じてあげてほしい、とエールを送っていただきました。

鼎談後は質疑応答にて沢山のアドバイスをいただきました。入江さんのお人柄がにじみでる温かく楽しい講演会となりました。

今回、ここに書ききれないほどの貴重なお話を伺う機会に恵まれましたことに感謝するとともに、今後の子どもたちと過ごす時間にお役に立てていただければ幸いです。

(文責・神奈川県私立幼稚園父母の会連合会常任委員 葛西桃子)



## 教育相談事業

子育てに悩みはつきもの。子育ての悩みは「育ちの専門家」へ。神奈川県私立幼稚園連合会では、発達専門家 臨床発達心理士が無料でお悩みをお聞きます。ご予約をお待ちしています。

- 実施曜日 毎週 火曜日 10:00~12:00/13:00~15:00  
毎週 木曜日 10:00~12:00  
詳細についてはホームページをご覧ください。

- 相談申込 電話またはホームページから、神奈川県私立幼稚園連合会事務局へ申込みください。TEL. 045-440-3210

- ホームページ <http://www.shinshiyou.com/education.html>

